

更生園保護者会総会（施設内巡回後）の施設職員等との意見交換での主な御意見（概要）

※→以下は県・事業団職員からの回答

(H27. 4. 26)

○今は国の政策として施設を縮小する方針というが残念。むしろ施設は拡充してほしい。事件はとても残念なことだったが、縮小ではなく拡充してよい支援をしてほしい。

○センターの現状としては、頑張ってきてめ細かな支援に取り組んでいるように思う。民間ではできない県立施設としての役割は大事であり、今後も果たすべき。

○4月に職員の方が変わると利用者は慣れるまで大変。異動があるのは仕方ないが、異動のスパンをなるべく長くしてもらえるとよい。

また、診療室があるので本当に助かっている。診療室も縮小の意向があるというが、支援員の方と2人がかりで半日かけて他の病院を受診するのでは大変。診療室も現状のまま継続してほしい。

○医療施設があるのはとても助かる。診療室は継続してほしい。

○改善がすすんでいるというが、今一つよくわからない面もある。情報提供はきめ細かく行ってほしい。色々な情報を得て、今後の暮らしを検討したい。

○そよかぜ荘（強度行動障害の方が利用する別棟の支援棟）をみたら、利用者の方が落ち着いているようにみえた。やはり少人数の方が利用者も落ち着いて生活できるのでは。そよかぜ荘以外も、なるべく少人数でケアを提供できるように改善してほしい。今日は色々な寮を見られてよかった。他の民間施設も見学してみたい。

○今日は他の寮も見られ、色々な意見も聞けてよかった。是非また懇談会に参加したい。

○そよかぜ荘をみて、もっと施設環境に工夫がされているのかと思っていたが、建物自体は意外と工夫がなく少しがっかりした。ただ、話を聞いて支援員の方は大変だと思った。今はセンターは危機だが、危機をチャンスに代えて、更により支援ができるとよい。よい形でセンターが長く存続できるようになるとよい。

○そよかぜ荘は支援が大変な方のいるところと聞いていたが、今日見学したら利用者の方が落ち着いて生活できているように見え、とてもよいと思った。我が子もあのように落ち着いて生活できるとよい。

○我が子は問題行動が多く、そよかぜ荘で生活することは難しいと思った。グループホームでの暮らしが向かない子もいると思う。

○センターで１０年以上世話になっており、センターにいられて本当にありがたい。一方で自宅でみたい気はあるが、実際問題として自宅ではみられないので複雑な気持ち。

○最近は落ち着いてきたが、それでも我が子は支援が非常に大変。ただ、他にも支援が大変な方がいるのに、我が子が支援員の方を独り占めしているようで申し訳なく思っている。

○どの寮も清潔感があり、利用者の方が穏やかな顔をしていてよかった。３０数年他の施設にいた後、更生園に来て数年経った。やっと落ち着いてきたが、落ち着くまでは大変だった。ここでずっと支援してほしい。

○数十年預けており、家に外泊しても更生園に帰りたいと本人が言う。本人にとっては更生園が家。年を取ってセンターに通うのも大変だが、なるべく来るようにするので、少しでも長くここで暮らさせてほしい。

○今、センターには障害の程度が重い利用者が残っていると思う。そういう人が新しいところへ行ってもうまく馴染めるかはわからない。今のままがよい。

○残念な事件はあったが、他に行くところが無い。ここでお願いしたい。

○移行するのは大変。子どもの性格や状態に合うところはどこか、じっくり考えないと。（移行先の環境が合わず）苦しむことがないよう、フォローしてやらないといけない。

○擦り傷等の怪我を負ったとして毎日のように電話連絡が来るが、あまり神経質にならなくてもよいのでは。

○事件は非常に残念なことだったが、支援員も大変だったのではないか。支援員にゆとりがなければいい支援はできない。支援員がゆとりをもって利用者に接することができるようにしてほしい。

○センターの定員は条例に書かれており、最終的には県議会で定員が決まる。皆で県議にセンターの実状を知ってもらおう努力がいる。また、県もそう言っているが、移行し

たくない人が無理やり出て行けと言われることはない。ただ、更生園の中でも寮によってきれいだったりそうでもなかったりする。他の民間施設も見て、更生園に対しても色々意見を言うことが大事。保護者会もこれまでと違って活性化しないと。意見を園に言い、園の意見も聞いて協力しあってよい園にしていく必要がある。利用者の支援は支援員がするが、支援員の支援は親がしないとイケない。支援員に頼るのは利用者で、その支援員を親が支える。支援員が楽になるようにしなければ支援員もやってられない。（保護者会による施設の）環境整備も、草むしり等ができない方も（支援員に気持ちを示すために）参加だけでもしてほしい。

○支援員の支援を親がするというのはそのとおりだと思う。また、事件直後の話らしいが、誰かが訪問した時に、施設長が「万事うまくすすんでいる」と事実と反することを言ったような話を聞いたが、現在のセンターの実情や私たち保護者の意見は県議等に伝わっているのか。

→健康福祉常任委員会の県議の方には説明会で出た意見の概要等を送付している。
また、保護者会に欠席の保護者の方にも意見の概要は送付している。（県）

○保護者会の仕事まで園にやってもらうようでは園が大変になってしまう。保護者会も変わっていくようにしたい。

→職員が少なく現場では苦労がある。支援現場の実際的な力添えをしていただけると大変ありがたい。（事業団職員）
→今日は保護者の多くの方が施設内を見学され、他の寮を初めて見たという声をいただいた。センターに足繁く来て他の寮も見て意見を言っていたきたい。徐々にではあるが、改善をすすめている。御意見を反映し、更に改善していきたい。（事業団職員）

養育園親の会総会での主な御意見（概要）

※→以下は県・事業団からの回答

(H27.5.6)

○第2寮をユニット化することだが、他の寮はどうするのか。養育園は今後どういう方向にいくのか。

→養育園の定員は現在80名だが、平成29年度末までに定員40名とすることを目指しており、新規受入を停止しているため減員自体は可能と見込んでいる。ただ、平成29年度末で法律の経過期間が終わり、20歳以上の方は児童施設に在籍できなくなるため、そういった方の行き場が見つからないまま経過期間が終わることのないよう、県全体で取り組む必要がある。

児童施設は毎年4月に新しい児童が入所するため施設全体が落ち着くまで時間がかかるが、養育園は現在新規受入を停止しているため、そういった混乱がなく支援ができる。受入停止の間に、支援体制や生活環境を確立し、受入停止解除後に新しく児童を受け入れても混乱することなく支援していけるようにしたい。（事業団）

○移行（卒園）をすすめていくというが、養育園には支援が難しい子が多い。18歳になったら出ないといけないことはわかっているが、実際には行く先が無い。

○これまでも移行（卒園）に向け努力してきたが、移行先が見つからなかった。グループホームに住める子もいるが、施設でないと難しい子も多い。民間施設でも施設環境が整っていれば受け入れてもらえるのではないかな。

○移行支援ということで具体的な体制づくりができればよい。グループホームの見学もし、よいところだと思ったが、そこで我が子が暮らせるというイメージは持てなかった。移行ワーキングチームができたというが、養育園の子どもを受け入れる施設への補助はあるのか。

→児童相談所には市町村等とよく連携して卒園後の行き先を確保できるように指導している。成人施設の新設は国の方針もあり難しいが、グループホームの整備はすすめている。20歳以上で児童施設に入所している方については、経過期間が終わる前に対応できるよう、児童相談所でも会議を開いて検討をすすめている。施設整備としては、まずは養育園に入れずにいる待機児童のための施設整備の補助を行う予定。更生園の利用者については、場合により受入れの補助を予定している。養育園の利用者の受入れについては今後の課題。（県）

→移行（卒園）に向け、事業団でも外部有識者を含むワーキングチームを立ち上げて検討をすすめている。事業団は事業団で、県は県で努力し、この3年間の中で移行（卒園）がすすむようにしたい。（事業団）

○親としても移行（卒園）させたいと思っているが、なかなか移行先が決まらない。施設の側にもこまめに情報提供してほしい。親も協力するので移行がすすむようにしてほしい。

○施設の空きや相談できるところについて情報提供してほしい。

○東北の方で施設に空きがあると言われたが、東北では子どもに会えない。県内でなくともよいが、訪問できる範囲での施設の空き情報がほしい。

→移行（卒園）は児童本人のニーズを一番大事にしていきたい。その上でどうマッチングしていくかは課題。施設環境の整備だけでなく人員配置も重要であり、事業所とすり合わせつつ丁寧にやっていくしかない。利用者・保護者とも一緒に考えてすすめていく。（事業団）

○保護者としては、行く先がないので、移行（卒園）が何より不安。パーソナルサポーターはそういったことも含めてサポートしてくれるのか。

→パーソナルサポーターの派遣当初は虐待の未然防止・早期発見ということでお願いしていたが、今は、移行（卒園）のサポート・アドバイスも含めて相談支援の専門家の視点でみてもらうようお願いしている。（県）

○職員の皆さんには感謝している。不幸な事件はあったが、寮をよくしようと思って一生懸命支援されていると思う。この利用者にはこう支援するのがよい、といった支援のノウハウが民間施設にも伝授できるとよい。事業団の役員の方も大変だが、今後も変わることなく息長く改善に取り組んでほしい。

→今は役員全員が現場で支援をしたことがある者か、権利擁護の専門家か、保護者という体制になっており、この体制の中で誰が代表者になっても改革がすすむように取り組んでいる。現場のシステムがしっかりしないと改革はすすまないの、事業団全体で取り組んでいく。保護者の意見も受けとめて反映させたい。保護者もセンターの運営に参加していただけるとよい。（事業団）